
岸は退陣、そして今回は!?

立憲フォーラム・戦争をさせない 1000 人委員会 共催

「戦争法案」を葬ろう 連続集会

◆戦後史から、「60 年安保」と今国会を考える

7 月 30 日（木）午後 5 時～ 参院議員会館 1 階 講堂

保阪正康（作家）、参議院安保特の報告など

国会へ。国会へ。多くの人びとが普段は行く機会もない国会をめざす。隣あった人と言葉を交わす。「私、デモは初めて」。「あら、私もです」

いま、国会を包み込む波のなかで、こんな会話が生まれている。

そして、シニア世代は思う。こんな風に入びとの熱気が国会周辺に再び生まれるとは思わなかった。「でも、俺たちの時には 33 万人が国会を囲んだんだよ」

「アンポの時は盛り上がったのは強行採決の後だった」と隣の若者に言ってやりたい。そう、60 年安保を経験した多くの人がいま、国会へ来ている。

昭和史の第一人者、保阪正康さんはかつて「院外闘争が日本の歴史上かつてみられないほど高まったのだ。なぜあのように盛りあがったかといえば、結局は岸首相の体質や肌合いに対する国民の怒りからであった。岸内閣は議会政治を根本から破壊する暴力的手段で新安保条約を可決した」と『60 年安保闘争』（講談社現代新書）に書いた。いま、侵略を認めたくない安倍首相の歴史認識と、近隣を敵視する一方の危うさのなかで鎮魂の夏を迎える。岸政権の時のように安倍退陣へと追い込むことのできる熱い夏にできるかが問われている。

◆ヒロシマ・安保法制・抑止力

8 月 6 日（木）午後 5 時～ 衆院第一議員会館 1 階 多目的ホール

孫崎享（元外務省・国際情報局長）

入場は無料。お問い合わせは江崎孝参院事務所（03-6550-0511、参 - 511）

毎週木曜日は午後 6 時 30 分から国会前集会を行っています。ご参加下さい。

※立憲フォーラムからのメール情報をご希望の方は、rikken96@gmail.com までメール下さい。

与党による安保関連法案の強行採決に抗議し廃案を求める

本日、衆議院安保特別委員会で与党は野党の強い反対の中、安保関連法案を強行採決をした。審議を重ねれば重ねるほどに国民の不信感が増大し、安倍首相自ら「国民の理解が十分ではない」ことを認めたにもかかわらず、戦後の安全保障政策を一転させる重要法案を、国民の声を無視し、非民主主義的な手法で採決したことに対し、私たち立憲フォーラムは怒りを持って糾弾する。

一昨年4月、私たちは安倍政権が憲法というものの存在と機能についてそもそも理解をしておらず、改憲のために憲法96条の先行改定などという禁じ手を使おうとすることに対する危機感から「立憲フォーラム」をつくり、立憲主義にのっとった政治を行うよう求める活動を続けてきた。

しかし、安倍政権は昨年7月1日「集団的自衛権も含む武力行使の高三要件」の閣議決定を行った。これは戦後一貫して保守政権が積み重ねてきた「集団的自衛権は憲法違反」との判断を唐突に180度転換するものであった。その閣議決定を具体化するために今回の法案を国会に提出してきたが、新法1本と10本の関連法改正を1本にまとめるという乱暴極まる方法であった。

これは、法律によって憲法を変えてしまうという許されない方法であり、憲法は為政者を縛るものであるという立憲主義を公然と踏みしめるものであった。大多数の憲法学者や元内閣法制局長官が「この法案は憲法に違反する」と判断をしたのは当然であり、専門家の枠をこえた1万人の学者や元自衛官、大学生などが反対を表明するなど「憲法違反の安保法制」との認識は国民各層に着実に広がっている。400近い地方議会が「安保法制反対」「慎重審議」を求める決議を上げ、各種世論調査では「法案反対」と共に「政府の説明が不十分」で「今国会で成立させる必要はない」という意見が圧倒的である。

それにも関わらず、与党は今日の暴挙でこれらの声に応えたのである。

参議院の審議では、「集団的自衛権行使の明確な基準がなく、時の内閣に武力行使を白紙委任することになる」など、この間明らかになった問題点を徹底追及する。同時に全国から澎湃（ほうはい）として巻き起こっている「憲法違反の戦争法案を葬ろう」という声に共鳴し、野党協力を一層密にして活動する。立憲フォーラムはその役割をしっかりと担い、「殺さない、殺させない」という平和主義を貫いてきた戦後日本を守り抜く。

2015年7月15日

立憲フォーラム代表 近藤昭一